



外観パース (前面道路側)

# トリニティ クリスチャンセンター 新築工事

佐藤工業株式会社 シンガポール支店 クリスチャンセンター作業所長

**小西正人**

Masato Konishi



## シンガポール共和国について

シンガポール共和国は、マレー半島南端の赤道直下に位置するため、一年を通し高温・多湿な気候である。

国土は東京二三区とほぼ同じ面積で、華人系七五%、マレー系一五%、インド系一〇%の人口約五六〇万人の多民族国家である。

シンガポールは、二〇一五年に建国五〇周年を迎えた比較的新しい国家であるが、リー・クアンユー初代首相の強烈なリーダーシップにより急速に発展し、現在ではアジアの四小龍の一角として世界に認知されている。

また、先の歴史的な米朝首脳会談が開催された国でもある。

## プロジェクトの紹介

当該プロジェクトの発注者は、トリニティクリスチャンセンターリミテッド社である。既存教会の老朽化に伴い、既存教会建物を解体して同敷地に新しい教会を新築するものである。

計画地は同国のほぼ中央にあるアダムロード沿いに位置し、周辺にはシンガポール日本人会やシンガポール植物園、また有名なフードコートの一つに数えられるアダムフードコートセンターが立地している。

1ト造・一部鉄骨造で、地下一階から地下四階までは駐車場、地上二、三階は各コミュニティ施設、地上三、四階はオーディトリウムとなっている。

建設場所は三方を病院・コンドミニウム・教会(他派)に囲まれており、前面道路は交通量の多い主要道路であることから、施工にあたっては近隣および交通車両に配慮した工事計画が求められる。

また建物は、ほぼ敷地一杯に計画されており、地下約一六層を掘削して地下部分を構築しなければならぬことから、周辺地盤への悪影響を抑えるために、逆打ち工法を採用して工事を進める。更に、地下・地上部を同時に施工することにより工期短縮につなげるとともに、安全・品質を確保して竣工をめざしていく。

## 終わりに

シンガポールの建設業界には、日系ゼネコンを始めドイツ、フランス、中国、韓国他の建設業者も多く進出している。また最近では、現地および中国系建設業者の技術力向上もあり、ひと昔前の日系企業の技術力における優位性は、かなり薄れてきている。

そうした現状と、民族・文化・考え方も違うなかで、更に我々が活躍していくには、技術力

入札時、当建物の建設方法は、地下四階分の構造物を完成させた後、地上部の躯体工事を開始する工事計画となっており、当初予定工事期間は三〇カ月であった。当社は逆打ち工法により予定工期を約二・五カ月短縮させる工事計画を提案し、発注者より当社案が評価され受注に至った。

## 工事概要

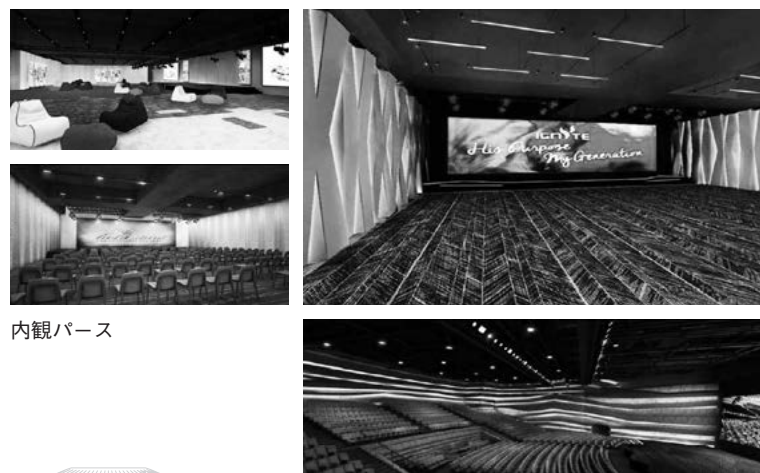
契約工期は、二〇一八年三月九日から二〇二〇年六月二十四日までの二七・五カ月である。建物は、地下四階、地上四階の鉄筋コンクリ

の向上はもとより、日本人にしかできない細部に至るまで配慮された工事計画を立案し、安全・品質・工期ともに顧客の要望にこたえていくことに尽きると思う。

日本の建設現場の進め方と多々違う面もあり戸惑うことも多いが、まずは無事故・無災害で竣工を迎えられるよう、作業所スタッフとともに現場運営を行っていききたい。



現場全景



内観パース



世界で活躍する  
日本の建設企業